

ご 挨拶

校 長 小 林 慎 一

平成 6 年度に本校創立 70 周年記念事業の一環として、「海外派遣事業基金」が設立され、「国際性と新世紀を展望する先見性を備えた人材の育成を図る」という趣旨のもとに、第 1 回国際交流派遣が実施されました。派遣先となったアメリカ合衆国オレゴン州にあるサム・バーロウ高校とは、その後平成 16 年に姉妹校提携を結び、現在まで長く交流を継続してきました。

今年度は第 25 回国際交流事業として、平成 30 年 11 月 5 日から 12 日まで、7 泊 8 日の日程でロサンゼルス及びポートランドを訪れ、サム・バーロウ高校での授業参加や交流活動、3 日間のホームステイを中心とした研修を行い、生徒 2 名、教員 2 名が参加しました。昨年度の第 24 回国際交流事業は、この長い交流の歴史の中で、始めてサム・バーロウ高校から生徒 6 名、引率 2 名の来県が実現し、本校での交流活動を実施することができました。その関係で昨年度は派遣事業を実施せず、今年度は 2 年ぶりの派遣となりました。少人数での派遣ではありましたが、参加した生徒及び引率教員にとっては、大変心に残る大きな事業となりました。富山空港での出発式で見せていた不安げな顔は、富山駅での出迎え時には、旅の疲れはあるにせよ達成感と満足感にあふれた充実した顔に変わっていました。しかし、残念ながらこの事業への参加希望者が減少する傾向にあります。経済的な問題、不安定な国際情勢の問題、治安の問題等々、様々な課題がありますが、多感な高校生という時期に、実際に異文化に触れるという機会は、多くの課題を乗り越えても実施すべき意義のある事業であると考えています。関係各方面の協力をえながら、少しでもいい方向に向かうよう努力したいと思います。

グローバル化の出発点は相違性の理解です。お互いの違いを認め合い一緒に未来を考えていくことです。ホームステイの経験は、コミュニケーション手段としての言葉の大切さを痛感させてくれます。ホストファミリーとの交流は、後々まで続く大変印象深い体験です。インターネットで世界中の情報が飛び交う現在にあっても、実際に体験することの価値は変わりません。この国際交流事業により、多くの生徒たちが直接海外と交流することで、多様な価値観や多彩な文化を認め合い、視野を広げ、グローバルな視点を身に付ける機会となることを期待しています。

最後に、この事業を支えていただいている関係各位の皆様には心より感謝申し上げます。本校生徒の可能性を高める国際交流派遣が今後、さらに充実した研修として発展していくことを願っています。